石岡市立東成井小学校
学校だより　１０号
令和５年６月２２日
校長　　石﨑　重臣

太郎・次郎

「太郎・次郎」は，校庭にそびえるいちょうの木です

【組織目標】児童が主役　みつけよう　かんがえよう　やってみよう～認める　寄り添う　支える～

「つぶやき」を大事に！

新年度がスタートして早三か月が経とうとしています。この期間の中でも、「なるいっこ」たち一人一人が成長していることに気付かされます。一つ上がった学年の数字にふさわしく、頼もしい小学生になっています。自分のことは何でも自分でやろうとする１，２年生。好奇心をもって学習や生活に臨む３，４年生。下級生の手本となり、優しく面倒を見てくれる５，６年生。それぞれの学年のよさが光り、一人一人の頑張りが「東成井小学校」を素晴らしい学校にしてくれています。

学習している教室をのぞいてみると、子どもたちの表情も実にさまざまです。先生の問いかけに、「なるほど」とうなずく子、「どうしようかな」と迷いながら考えをまとめようとする子、また、言葉を発せずに首をかしげる子や、苦笑いして両手を頭の上に乗せる子など、頑張って学ぶ姿を見ているこちらも思わず笑顔になります。

子どもたちが学んでいるときに、心にひらめいたことをその場の状況を気にせずにつぶやくことはよくあることです。それは、子どもたちが学びの対象に主体的に関わっている証拠です。東成井小学校ではつぶやきの価値を大切にし、耳を傾けていく指導を目指します。また、言葉にならないつぶやき…「表情」「仕草」「反応」に目を向け、子どもたち一人一人の学びを支援していきたいと考えています。

新学期当初に紹介した「心のスイッチ」の作者である教育者東井良雄氏は、子どものつぶやきを、下の詩のように詩に表しています。ご家庭でお子さんが何かに取り組んでいるとき、「答えを授ける」前に、つぶやきやその表情をじっと見守ってみると、確かな成長の跡が見えてくることでしょう。夏休みまであと一か月、「なるいっこ」たちの「つぶやき」をたくさん見つけていきたいと思います。

耳を育てる

東井義雄

子どもが「はてな？」「なぜかな？」「こうかもしれないぞ」「いや、まてよ、これはちょっとおかしいぞ」という顔をするとき、心と体を耳にしはじめたときと考える。その心と、耳の穴をひろげる仕事、それこそが学習を育てる仕事なんだと考える。

「問い」を育てること、それが「耳」を育てることだと考える。

みつけよう
かんがえよう
やってみよう